

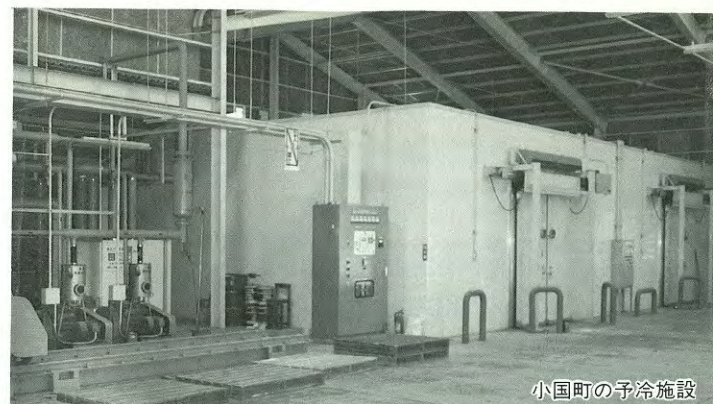
# まわれ まわれ 元気よく。

厳しい財政事情 行政改革の推進という状況の中で、今年度の県予算が決まりました。総額四、九七一億円、対前年度比二・三％増という緊縮型の予算となっています。これは昭和三十五年以来二十四年ぶりの低い伸び率です。

こうした中で本県の持つ優れた条件を生かし、特色ある地域を確立していくためには、県、市町村、民間が一体となって知恵を集めることが大切です。予算の編成にあたっては、

- 1 明日に生きる誇りのもてる農林水産業の確立
- 2 最新の技術と情報を生かした力強い産業の振興
- 3 明日の熊本を担う人づくり
- 4 成熟した福祉社会の基礎づくり
- 5 個性ある調和のとれた地域づくり

この五つの柱を達成するため、今年度予算には新しいアイデアを盛り込んだいろいろな事業が組まれて、います。そこで、本年度の予算のなかで、特徴的な事業のいくつかについて紹介します。



小国町の予冷施設

農産物の輸入 枠拡大など農業をとりまく環境はますます厳しくなっています。

本県は西日本随一の農業県であり、今後も国内外の他産地との競争に負けない足腰の強い農業を確立していく必要があります。

従来から力を入れてきた基盤整備や水田利用再編対策を引き続き推進するとともに、時代の流れに即した事業にも取り組みます。

まず、高生産性農業のモデルとして、パイロット農業地区を新たに三地域に加え、整備すべく調査研究を行います。農業技術面では既設の農業関係試験研究機関の機能を充実させるため、整備統合していく方針で、そのためのマスタープランを策定しています。近年、消費者の嗜好が多様化していますが、その対応策としては、地域の特性を生かした特産品づくりや一・五次産業の振興を図ります。

また、消費地から遠いという条件を克服し、産物の鮮度を保持するため、予冷施設の整備や航空機による輸送など流通面での工夫にも力を入れます。



テクノポリスセンター完成予想図

とにかく産・学・住一体のプロジェクトですから、建設推進にあたっては多くの課題がありますが、当面は根付いてきた先端産業を充実させていくことが必要でしょう。

まず、テクノポリス建設の中心機関となるテクノ財団の財政基盤を強化し、その活動拠点となるテクノポリスセンター（電子応用機械技術研究所を含む）の建設を進めます。

既設の工業試験場にも電子機械分館に引き続き精密機械分館を建設し、精密加工技術の研究開発、指導体制を充実させます。

テクノポリス計画が承認されましたが、どのよう建設が進められるのですか。

更に、ベンチャービジネス育成のため、研究設備の設置や高度技術の共同開発に対する助成措置を行います。

一方、増加が予想される先進誘致企業と地元企業の有機的連携を図るため、内陸部における工業団地を計画的に整備促進していきます。

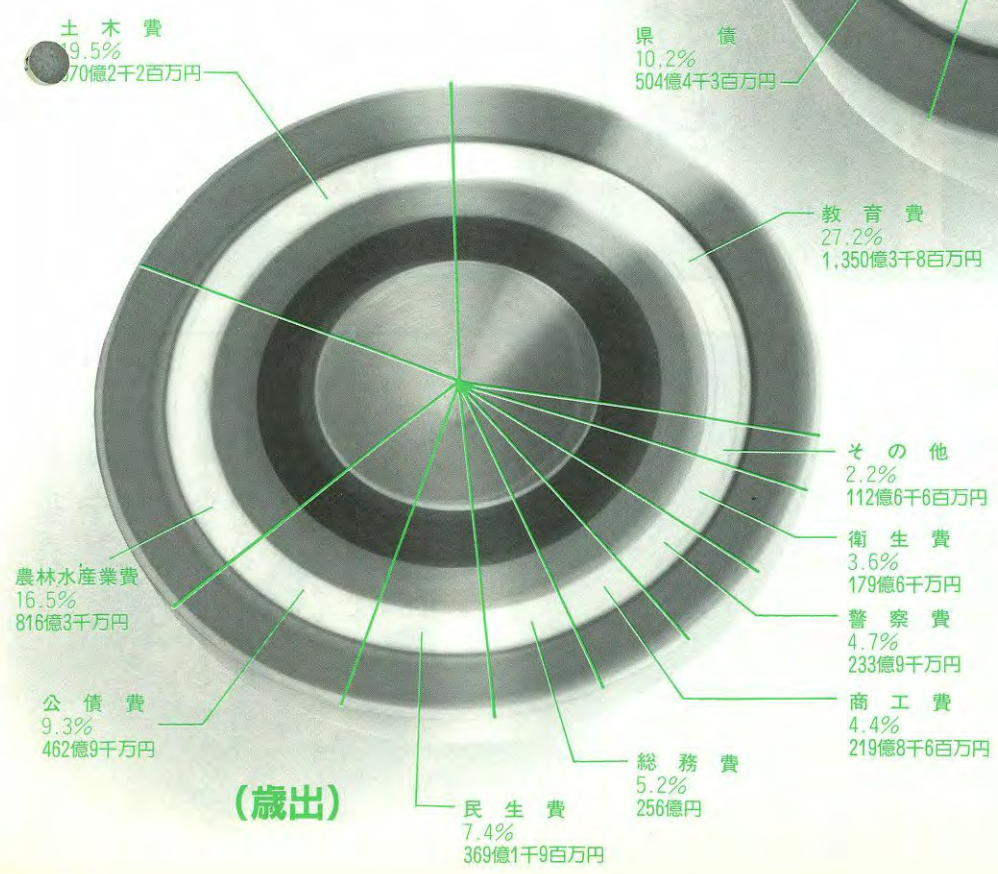
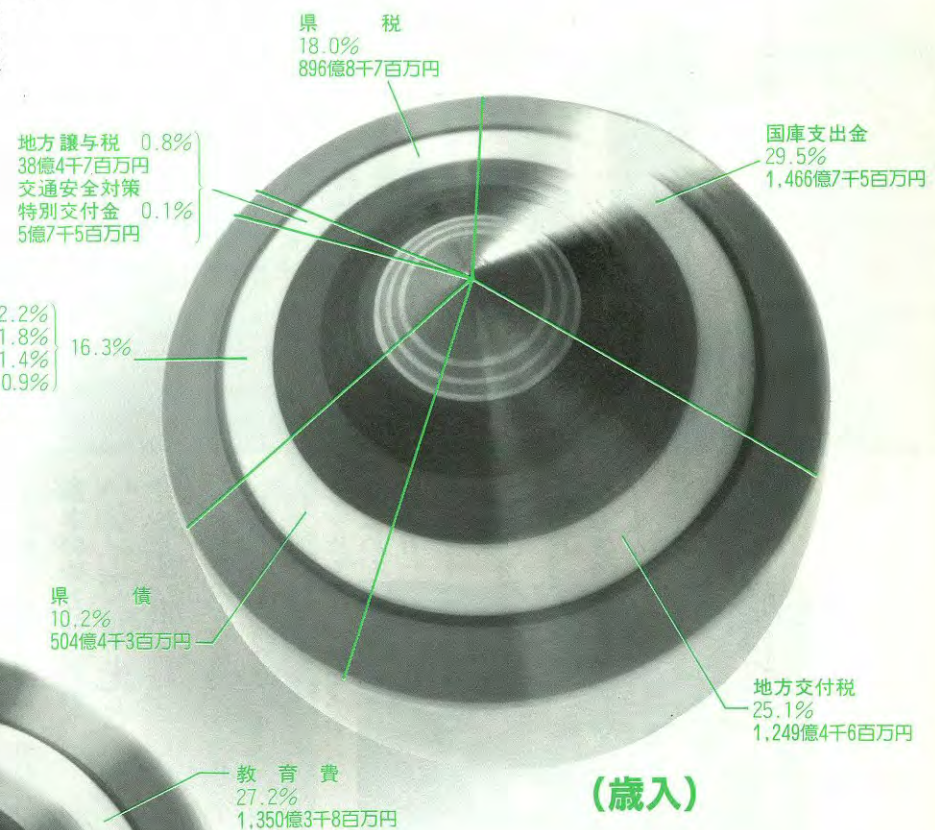
## 最近、観光振興に積極的なようです。

県内各地を訪れる観光客の数は年間およそ二、四百万人で、横ばい状態となっており、魅力ある観光地づくりが求められています。その一つとして二年前から始めている「大型観光キャンペーン」を、本年度も市町村、観光業界とともに、各種イベントを企画しながら展開していきます。

中核となる観光施設としては、各種レクリエーション施設を備えた「阿蘇いこいの村」がオープンしたのをはじめ、大規模年金保養基地（グリーンピア南阿蘇）の本格的着工、家族旅行村、海洋レクリエーション基地、野外コンサート施設などの建設調査が行われます。



阿蘇いこいの村



昭和59年度当初予算  
合計総予算  
**4,971億円**